

R3 授業改善プラン（国語）

学 年	・課題（児童の実態）	○具体的な改善プラン
1 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなの読み書きが定着していないので、音読することが難しい児童がいる。 ・相手の話を集中して聞けない児童がいる。 ・場面に応じた声の大きさを話せない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ひらがなを定着させるため、ステップタイム等を活用して繰り返し練習に取り組みせる。また、授業では、読み方を工夫しながら正しく音読ができるよう指導する。 ○話を聞く時の「あいうえお」を提示して常に意識させる。 ○「声のものさし」を掲示して、常に意識させるとともに、できている児童や、できている場面を称賛し、場面に応じた声の大きさを話せるように指導する。
2 年	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の漢字を用いて、文を書く習慣が身に付いていない児童が多い。 ・相手の話を集中して聞けない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ノートや日記を書く際には、既習の漢字を使うように声をかけ、モデル文を提示して、始め・中・終わりの構成や順序を意識して書かせる指導を繰り返す。 ○話を聞く時の「あいうえお」や児童の実態に応じた聞くポイントを提示して、常に意識させる。
3 年	<ul style="list-style-type: none"> ・1, 2年生で習った漢字は用いることができるが、3年生の新出漢字を、文の中で用いることが苦手な児童が多い。 ・文の構成を考えて、順序立てて経験したことなどを文章に書くことが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国語の授業に限らず、他教科の授業でも既習の漢字をすすんで板書に用いて、漢字を書く機会を増やす。 ○始め・中・終わりの構成を考えるための組み立てメモを繰り返し用いて、順序を意識して書くことを多く経験させる。
4 年	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や語彙の習得が苦手な児童が多い。また、学習した漢字を、文の中で用いることが苦手な児童が多い。 ・文の書き方や構成を意識することが難しい児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習中は常に辞書を手元に置かせ、分からない漢字や言葉の意味などは、辞書を引いて調べることを習慣化させる。 ○明確なテーマと文章の基本文型を提示し、「何を」「どのように」書くのかを意識させながら書かせる指導を繰り返す。
5 年	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の漢字を用いて、文を書く習慣が身に付いておらず、漢字の定着が不十分な児童が多い。 ・自分の考えを文章として表現することに対して、苦手意識をもっている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習の漢字を使うように声をかけ、書けていない場合には、その都度確実に直させるように指導する。 ○自分の考えを表現する機会を意図的に設け、できるだけ多く表現できるようにしていく。また、教師が児童の考えを必要に応じて価値付けることで、児童が自信をもって自由に表現できる環境をつくる。
6 年	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や語彙の習得が苦手な児童が多い。また、漢字を覚えられても、文章中で使えない児童が多い。 ・語彙が少なく、自分の考えや感想などを分かりやすく書いたり伝えたりすることが苦手な児童が多い。 ・文の中での主語や述語、修飾語や被修飾語の関係などの文法の理解が曖昧な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○熟語の意味を調べさせたり、それを使って文章を考えさせたりして文章を書く中で漢字を使えるようにさせる。定期的に漢字小テストを実施し、習熟を図る。 ○伝える相手や目的を意識して書けるように、教材や導入を工夫する。また、言葉の宝箱などを活用し使える言葉を増やす。学級全体で文章を共有し、振り返りを充実させることで文章を書くことの良さや大切さを実感させる。 ○教材の文を読むときに、意図的に主語と述語、修飾語と被修飾語の関係を確認させる。